

報告書「第二回 阪大院生 知の横断」

概要

日時: 2017年4月30日(日) 14:00 ~ 17:30

場所: 基礎工学国際棟セミナー室

対象: 中高生以上(中高生、学部生、院生、一般の方)

目的: 異分野交流、アウトリーチ活動

後援: 大阪大学 全リーディングプログラム・全学教育推進機構 高大接続オフィス

宣伝方法

高校への宣伝

- ポスター・プログラム 各 40 部を関西圏の中学・高校 62 校、学習塾 13 校に送付。
- 前回の参加者へのメール。

学内での宣伝

- 学内でのポスターの掲示。
- O+PAS での宣伝。
- 大学の HP や SNS での宣伝。

プログラム

大学院生トーク(14:00 ~ 16:40)

- 高椋章太(基礎工学研究科 D2・カデット)
「理論科学者は新しいものを作りだせるか？」
- 小林勇輝(人間科学研究科 D1・超域)
「自分の内側を知る -実験心理学の考え方-」
- 芝井厚(情報科学研究科 D3・ヒューマンウェア)
「『生きているとはどういうことか?』とはどういうことか？」

フリーディスカッション(16:40 ~ 17:30)



高椋さんの講演の様子



小林さんの講演の様子

主催した学生から

大学院生間の異分野交流や中高生へのアウトリーチ活動を通して、参加者が将来の指針を得ることを目的として「阪大院生 知の横断」を開催しました。本会では、化学・心理学・進化工学をテーマとした大学院生の講演が行われました。大学院生の講演は中高生以上が対象で、どの講演でもそれぞれの専門分野の魅力を分かりやすく伝えてもらいました。参加者数は我々の予想を上回る 116 名(うち中高生 72 名)であり、講演者と活発な議論が行われました。

参加者からは「今まで知らなかったことに興味を持つことが出来た」や「講演者との距離が近くて面白かった」という評価を頂き、異分野交流やアウトリーチといった目的は十分達成できたと考えています。一方で、人数に対する会場の広さや、休憩時間の使い方など、今後この企画を続けていく上での改善点も得られました。

我々は、より多様な研究分野で活躍する大学院生に参加してもらい、この会を 10 年、20 年と長く続けて行きたいと考えています。そして、「知の横断」が異分野間の繋がりを築き、さらには阪大生が自身の研究を社会に発信するための場になることを望んでいます。

[実行委員]

横井雅彦(理学研究科 D1・カデット)

島谷二郎(基礎工学研究科 D1・ヒューマンウェア)

松浦友紀(理学研究科 D1・生体統御)

宮原浩維(工学研究科 M2)

岩切秀一(理学研究科 M2・カデット)

松本渚(文学研究科 M2・未来共生)

秦徳郎(理学研究科 D3・カデット)

(文責: カデットプログラム 3 期生
理学研究科 D1 横井雅彦)